

SDGs との関連

* 開隆堂の教科書ではすべての目標に対応した題材を掲載しているため、一冊を通して、総合的にSDGsを考えることができます。

目標	目標の概要	開隆堂の教科書で取り上げられる題材
 1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	貧困問題は途上国だけでなく日本でも起こっています。単に経済的な収入の不足だけでなく社会的な差別、排除など、多様な形態の「貧困」があり、その解消のための取り組みが国やNPOなどで始まっています。これらの課題と、必要に応じて支援を活用できることを理解することが大切です。 日本版ネウボラ (p.55)、地域の人とのつながり (p.56)、地域に住む多様な人びと (p.58) など。
 2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	現在、世界の人口は増え続けており、穀物需要量は増加する一方で、農地は同じようには増加していません。地球温暖化による干ばつや水害が食糧生産や価格に影響することもあります。食料自給率を上げるとともに、飢餓をなくす目標のための取り組みを理解しましょう。 子ども食堂 (p.56)、地産地消 (p141)、日本の食品ロスと世界の食糧援助量 (p.152)、食料自給率の国際比較 (p.153)、「WEFOOD」 (p.262) など。
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	すべての人が健康であるために、健康に害を及ぼす有害物質の削減や、伝染病や感染症への対応などが目標に挙げられています。他国では、医療が容易に受けられない国もあり、同時に貧困の解消も目指されています。「健康・快適・安全」の視点を働かせるためにこれらの課題を意識する必要があります。 母子健康手帳 (p55) 食品表示法 (p.99)、放射線物質などによる健康被害 (p105)、食中毒予防 (p113)、化学物質過敏症とシックハウス症候群 (p216)、
 4 質の高い教育をみんなに	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	すべての人が平等に教育を受けられる世界をつくること。子どもから大人まで、ジェンダーや貧富の差に関係なく、質の高い教育機会を得られる世の中を実現することが求められています。 孤児院からバレーナとなったミケーラさん (p25)、子どもの権利条約 (p54)、地域での多文化共生活動の例 (p58)、日本における子どもを援助する活動 (p64)、マララ・ユスフザイさんの活動 (p65) など
 5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	性別の差別がない未来を目指します。実際には「女性だから」といった理由で、差別を受けるケースも少なくありません。男女問わず、誰もが自分らしく生きられる世界に向け、他者を想像することの大切さを理解する必要があります。 男女共同参画社会 (p21)、育児休業を取得した父親のメッセージ (p21)、LGBT (p.59)、ユニバーサルファッション (p165)、ノーマライゼーション (p223) 生徒が好みの制服を選ぶ取組 (p176) など
 6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	世界では、今も安全な水と衛生的なトイレを確保できていない地域が数多くあります。人間が使える淡水は地球上の水全体のわずか 0.01%です。世界には水不足に苦しんだり、汚染された水で健康を害したりする人びとがたくさんいることを知り、水を汚さず大切に使うことを理解します。 エコクッキング (p106-107)、バーチャルウォーター (p153)、洗剤の量と汚れ落ち、再付着の関係 (p.181)、水の汚染を防ぐ暮らし (p260) など
 7 エネルギーをみんなにそしてグリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。	便利な暮らしになればなるほど、エネルギーの消費量は増えます。一方で化石燃料を燃やすと二酸化炭素が発生することから、世界中の人々に、安全なエネルギーを届けるためには、太陽光や風力など再生可能エネルギーや、無駄に消費しているエネルギーの削減方法を理解しましょう。 環境共生住宅 (p.222)、世界の二酸化炭素排出量 (p258)、再生可能エネルギーの活用 (p259) など
 8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。	経済活動は、一人ひとりの働きによって成り立っており、それらを担う人々が生活を営めなければ、経済成長もありません。社会を支えるケア労働の必要性も増してきました。仕事と仕事以外の生活の調和の大切さを知り、その両方を充実させるため、将来について、キャリア教育と関連させ考えられます。 家庭生活を支える社会の仕事の例 (p20)、ワーク・ライフ・バランス (p.21,65)、先輩からのエール (教科書全体で 18 人)、高齢者の介助・介護 (p61) など

目標	目標の概要	開隆堂の教科書で取り上げられる題材
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。	持続可能な発展のためには、その基盤となるインフラ(水、電気、インターネット等)の整備は不可欠であり、社会の経済的安定が生活を支えていることを理解します。水道が無い国では水くみが子どもの仕事になり、未来の経済を担う子どもたちの教育を受ける機会が奪われる課題もあります。 家庭の機能の安定に向けて (p.19)、消費生活のしくみ (p.231)、児童労働 (p.263) など
 10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する。	誰ひとり取りこぼさないという「人」へのまなざしがSDGsの根底にあります。国を超えて不平等を是正する必要があります。開発途上国の多くで生産した作物を不公平な価格で安く買われる実態を是正するためのフェアトレードなどの取り組みなどを知ることが大切です。 ファストファッションの裏側で (p203)、フェアトレードとフェアトレードタウン (p257) など
 11 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。	生活する人々にとって快適で住みやすい地域を提供するために、貧困地区の解消やインフラなどのほか、自然災害への対策が大きな課題になっています。地域で起こる自然災害を知り、どのような対策がとられているか理解する必要があります。 自然災害と安全対策 (p.218)、ハザードマップ (p.220)、災害から「いのちと生活」を守るために (p292-299) など
 12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する。	持続可能な社会のために、資源の有効活用が求められています。生産工程における廃棄発生抑制、食品ロスの削減、消費者側のリサイクルやリユースなど、生活の中でも個人が取り組みやすい目標です。 食品ロス (p.152)、不用の布を再利用した製作例 (p194-195)、衣服のリサイクル (p.203)、循環型社会・3R (p260)、坂野晶さんの活動 (p261)、SDGs 目標 12「つくる責任・つかう責任」 (p262) など
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。	異常気象や海水の膨張、海面の上昇などの気候変動が生態系や農業などに影響を与えています。その大きな要因が温室効果ガスによる地球温暖化です。エネルギーの使い方を直すことで、個人でもできることはあります。 フードマイレージ (p152)、ゼロエネルギーハウス (p.222)、環境への影響 (p241)、地球温暖化を抑える暮らし (p258)、温暖化を防ぐ国連の取り組み (p259)、省エネの工夫 (p260)、LED (p261) など
 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。	海に囲まれた日本にとっては、なじみが深い目標です。海の生態系を守ることは、食の安全だけでなく、漁業や関連産業を守り、文化を継承することにつながります。魚食の文化を理解し、海を汚さない行動につなげましょう。 水の安全と魚 (p104)、日本周辺でとれる魚などの利用 (p123)、魚の調理実習 (p124-129)、一尾の魚からつくられる郷土料理 (p141)、プラスチックを使わない取組 (p260) など
 15 陸の豊かさを守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。	空気や水、土地から食料まで、森林は生命を維持する大切な役割を果たしています。森林が減少すれば、人間だけでなく、動植物全体が影響を受けることになります。森林の必要性とそれを守る取組があることを知ることが必要です。 日本の農地面積の推移 (p.153)、自然と共にある伝統的な住まい (p209)、木造住宅を再生する取り組み (p223)、古材レスキュー東野唯史さんの活動 (p224)、吉野杉の保全活動 (p261) など
 16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。	平和で公正な社会には、それを守る法律と制度が必要です。国はそれらにアクセスしやすいよう制度を整えますが、私たちが生活者を支える法律・制度を理解し、活用できるようになることで、目標達成に近づくことができます。 子どもの権利を守るための条約や法律 (p54)、食品安全基本法 (p105)、消費者を支える法律や制度 (p250)、法テラス (p251)、弁護士・中村新造さんのお話 (p264)、災害に関連した法律 (p295-297) など
 17 パートナリシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。	SDGsの目標は、国だけでなく、世界中の企業、市民などが一丸となって積極的に取り組むことにより実現されるものです。私たちが、実現に向けて取り組んでいる団体や企業を知り、その団体へ寄付をしたり、企業の商品を購入したりすることで、行動に移すことができます。 ユニセフの活動 (p55)、スローフード運動 (p.141)、エシカル消費 (p256)、消費者市民社会 (p257)、葉っぱビジネス (p261) など